

GOD WITH US

Part 11: LATER LETTERS

Message 9 – 1 Peter

Hope Fixed on God

1Peter 3:18 – 5:14

神はわれらと共に

パート 11：後の手紙

第9メッセージ-ペテロの手紙 第一

神に置く希望

ペテロの手紙 第一 1-3章

はじめに

頻繁に、私たちの最高の証は、最大の試練を通してもたらされます。これは、ペテロの手紙第一の全体的なテーマであり、ペテロは、迫害の中で、ひどく苦しんでいる人々を励ますためにこの手紙を書きました。彼らが世における迫害に耐えるとき、望を神に固定し続けるようチャレンジしました。この世は、信者たちのキリストへの信仰のために迫害しても、次の世では必ず報いがあります。迫害者らは、信者たちから正義を奪っても、天の父は、彼らの忠実な忍耐を重んじられます。

第一ペテロ第3章18節に移る前に、妻と夫に関する注釈を提供したいと思います(第一ペテロ3:1-7)。ペテロの教えには、女性と男性に対する神のご計画の理解を深める特異な教えがあります。

シャーリーによる、妻に関する注釈 (3:1-6)

3:1 同じように、妻たる者よ。夫に仕えなさい。そうすれば、たとえ御言に従わない夫であっても、3:2 あなたがたのうやうやしく清い行いを見て、その妻の無言の行いによって、救いに入れられるようになるであろう。3:3 あなたがたは、髪を編み、金の飾りをつけ、服装をととのえるような外面の飾りではなく、3:4 かくれた内なる人、柔和で、しとやかな霊という朽ちることのない飾りを、身につけるべきである。これこそ、神のみまえに、きわめて尊いものである。3:5 むかし、神を仰ぎ望んでいた聖なる女たちも、このように身を飾って、その夫に仕えたのである。3:6 たとえば、サラはアブラハムに仕えて、彼を主と呼んだ。あなたがたも、何事にもおびえ臆することなく善を行えば、サラの娘たちとなるのである。

(第一ペテロ3:1-6)

上記の聖書箇所には、3つの大きな考えがあります。

1. 妻は、キリストが例示されたのと「同じように」生きるべきです。

ペテロは、クリスチャンに、試練と迫害に合った際の苦しみ方と、それに対応する方法を教えています。私たち全員のための模範として、イエス様とその苦難の例を用いています。イエス様は、父の御心に服従されました。苦しみの杯を

飲まれ、私たちの罪のために死んでくださいました。苦しんでいる間、軽蔑され、侮辱されても、罪を犯されることはありませんでした。彼は報復されませんでした、「正しいさばきをするかたに、いっさいをゆだねておられた。」（第一ペテロ 2：22,23）。イエス様の希望は、その御父の正義にありました。復讐されることなく、すべてを見ておられ、知っておられる正しい判事に自身を委ねられました。（注：キリスト誕生の約 800 年前、預言者イザヤは、キリストがどの様に苦しまれるかについて預言しました。「53:7 彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかつた。」（イザヤ 53：7）。）

ペテロは、キリストの模範を通して、妻と夫たちに訓戒しています。まず、妻に対しての教えから始めます：

3:1 同じように、妻たる者よ。夫に仕えなさい。そうすれば、たとい御言に従わない夫であっても、**3:2** あなたがたのうやうやしく清い行いを見て、その妻の無言の行いによって、救い入れられるようになるであろう。（第一ペテロ 3：1，2）

夫は信者にも非信者にも当てはまります。ここでのポイントは、敬虔な妻と一緒に暮らすのが困難な夫であるということです。夫は神の真理に「説得されていない」のです。妻はどの様に反応すべきですか？

キリストの模範と「同じように」反応すべきです（第一ペテロ 3：1）。妻はまず、忠実な救い主であり、裁かれる方に身を任せます。第二に、本物の、また敬意を表する態度を維持す

ることを選ばなければなりません。第三に、自分の言葉で夫と戦ったり操作しようとしてはいけません。最後に、恐れに屈すべきではなく、むしろ神に希望を持ち続けるべきです（第一ペテロ 3：6）。

ほとんどの文化において、女性や妻は、男性や夫から名誉と敬意をもって扱われていません。今日でも、これは多くのところで当てはまります。これは苦痛で困難極まりない状況です。夫は目もくれず、愛されていないと感じているにもかかわらず、希望を神に留めようとしている妻に、イエス様も同様の恥と不名誉を経験されたことを思い出させることによって、慰めをもたらします。彼女の最終的な承認と正義は、いつの日か神からもたらされます。西洋文化では、健全な結婚は相互の愛、友情、オープンで正直なコミュニケーションの関係の上に成り立っています。妻は、穏やかに敬意を表する態度で、時には説得力のある口調で、心を共有することが奨励されています！妥協できない場合もあります。ペテロの言葉を妻に当てはめると、時には、夫の下に「ランク付け」し、神のご決断に信頼する必要があります。神は忠実なお方です。私も何度も経験しました！

2. 外見を飾ることと内側の美しさについて。

3:3 あなたがたは、髪を編み、金の飾りをつけ、服装をととのえるような外面の飾りではなく、...（第一ペテロ 3：3）

ペテロは、女性がこれらのもので身を飾ることができないと言っているではありません。重点は、外見のみに焦点を当てることから生じる可能性のある不均衡にあります。神は常に心の中の隠れた人柄、純粋な心に、より関心を持っておられます。内なる自己は、聖霊様に委ねたとき、何年にもわたって増大する、衰えることのない美しさを保持します。これが「かくれた内なる人、柔和で、しとやかな霊という朽ちることのない飾りを、身につけるべきである。これこそ、神のみまえに、きわめて尊いものである」(第一ペテロ 3:4)。

「柔和で、しとやかな霊」とは、「性格」ではないことに気づいたときのことを思い出します。若い妻として、私はもっとおしゃべりな性格であったにもかかわらず、静かにしようとしてしました。そして、聖霊に委ねるとき、あらゆる性格タイプの人々が「柔和で、しとやかな霊」を示すことができることを学びました。ヤコブの手紙の説明が私のお気に入りです。「すべて、聞くに早く、語るにおそく、怒るにおそくあるべきである。」(ヤコブ 1:19)。同様に、ヤコブは、後にこう言います。「3:17 しかし上からの知恵は、第一に清く、次に平和、寛容、温順であり、あわれみと良い実とに満ち、かたより見ず、偽りが無い。」(ヤコブ 3:17)。

3. サラのような女性を手本にする。

アブラハムの妻としてのサラの物語は、創世記第 12-23 章に記録されています。サラは美しい女性でした。サラとアブラハムは、二度、エジプトとゲラルに住むことが強いられ、彼女の美しさに気づいた、それぞれの国の王によって、ハーレムに連れて行かれました(創世記第 13、20 章)。彼女の夫であるアブラハムは、これらの状況において、神に信頼することに怠り、むしろ自分自身を守るために自分の計画に頼った結果、この様なことがサラの身に起きてしまいました。王たちが彼女を求めたときに殺されないよう身を守るために、アブラハムはサラに「妻」ではなく、「姉妹」であると言うように告げました。この様に、サラの例でさえ、良い選択をしかけた夫と共に暮らすことが背景です。

サラは、神に希望を置いた女であったとされています。アブラハムとの結婚生活の殆どは、カナン土地で過ごし、その地の人々の中では、他国人で見知らぬ人として見られました。もし、恐れを抱き、神から目を離していたなら、冒険を共にする、アブラハムの人生のパートナーを務めることは不可能だったでしょう。

サラは、神が尊ばれる、内なる霊を持っていましたが、彼女の強い個性的な一面もありました。少なくとも 3 度は、彼

女がアブラハムとの人生、家族、将来に関する重要な問題について話し合う箇所を読みました。

まず、サラは、主が彼女の子宮を永久に閉じられたと信じていたので、アブラハムが彼女のために子供を産むために、ハガルの所にお入りくださいと提案しました（創世記 16：1-4）。

次に、ハガルが妊娠すると、サラを見下すようになったので、サラは怒り、私が受けた害はあなたの責任ですとアブラハムを非難しました（創世記 16：4,5）。

そして、サラがついにイサクを出産し、離乳した頃、イシュマエルがイサクを嘲る現場を目撃しました。サラは、アブラハムに、ハガルとイシュマエルを永久に追い払うように言いました。これには苦しむアブラハムでしたが、神がサラの言葉を肯定されたので、二人を追い出しました（創 21：1-12）。

第一ペテロ 3 章 6 節で、ペテロは、サラがアブラハムのことを「私の主」と呼んだ時のことを記しています（創世記 18：9-15）。アブラハムとサラがついに奇跡的に息子を妊娠すると言われたのを耳にした後、サラは、幕屋の中で黙想していました。彼女は出産の年をはるかに超えていて、彼女が耳にしたとんでもない約束を聞いて、思わず笑って言いました。「わたしは衰え、主人もまた老人であるのに、わたしに楽しみなどありえようか」。

なぜペテロは、この箇所を持ち出したのでしょうか？サラの人生における夫の立場を尊重していることを主張したかったからです。彼女が実際にアブラハムを「主」と直接呼んだことがあるかどうかはわかりません。個人的には、それを疑う傾向があります。しかし、もっと重要なことに、彼女はアブラハムを尊敬し、恐れることなく神に希望を抱き、息子を妊娠することにおいて、神に信頼することを選ぶなら、神は奇跡を起こすことができると信じていました。

これら 6 節は、妻たちにとって、また、すべての男女にとって、豊富な知恵と時代を超えて生き続ける原則が多く含まれています。神の目に尊い、心の中の隠れた人柄の美しさを育み続ける必要性によって、何よりも、報復されることなく、苦しまれたキリストの模範を覚えるように、そして、私が夫に誤解されていると感じるときも、神は正しく裁かれる判事であることを覚え、神に忠実であり続けることを選ぶ努力を呼び起こさせるように、私は、サラの物語にチャレンジされてきました。

ボブによる、夫たちに関する注釈（第一ペテロ 3：7）

3:7 夫たる者よ。あなたがたも同じように、女は自分よりも弱い器であることを認めて、知識に従って妻と共に住み、いのちの恵みを共どもに受け継ぐ者として、尊びなさい。それは、あなたがたの祈りが妨げられないためである。（3：7）

妻に関する教えは、6節に及ぶ一方、夫への教えは、1節しかありません。これは、困難な状況下での苦しみに関する第一ペテロの全体的なテーマによるものであり、ペテロは、キリストへの信仰の結果として困難な結婚生活を送って、苦しみの中にいた妻たちに焦点を当てていたからです。それでも、夫に与えられた一節は重要です。

-夫は妻に対して「思いやり」を示す必要があります。これは直訳すると、「知識に従って、妻と一緒に暮らす」と書かれています。夫として、私たちは常に妻をよりよく知るように努力する必要があります。妻の心、必要、欲求、傾向、恐れなどを知ることです。夫は妻を研究し、深く知ることができなければ、妻をよく愛することはできません。

-夫は妻を「弱い器」として尊重しなければなりません。これは、主に体力的に弱い器のことを言っているのではなく、彼女の感情的な優しさと関係の不調和に対する高められた感受性について言及しています。「a bull in a china shop (瀬戸物屋の雄牛/訳：繊細さと思ひやりが必要な状況で、攻撃的に無謀で不器用な人。)」ということわざがあります。妻を思いやらない夫は、「花畑の犀(サイ)」の様です。

-夫は妻に、「いのちの恵みの相続人として敬意」を表すべきです。善い夫の鍵は、次の通りです。夫は、神の目には、妻が私たちが「いのち」の相続人であることを認識しなけれ

ばなりません。彼女は、異なる方法でその役割を果たすように召された者であっても、新しいいのちという神の贈り物の観点から、男性と平等な立場にあります。何よりも、夫は妻に、神に似たものとされた平等な担い手である者として、敬意を表する必要があります。

-夫は、妻に辛く当たっていると、神に祈りが聞かれることはないということを認識しなければなりません。神は、それほどまでに、男性による女性の適切な扱いに関心を持っておられます。妻との関係が良好でない夫とは、神は関係を持たれません！

ここから、前回の説教ノートの最後の部分、中断したところからの解説を続けます。ペテロは、迫害された信者たちが試練にいかにかに反応するかに関心を合わせています。私たちが御心を行いたいと願うがゆえに苦しむとき、最大の試練は、最大の証となり得ると言っています。私たちの最大の試練において、私たちの希望を人にではなく、神の正義に保ち続ける必要があることをペテロは示し続けます。

迫害された神の民の究極の勝利：3：18-4：6

全体的なテーマを念頭に置くことによって、より難解な部分、特に3章18-4章6節の解釈に役立ちます。ここは、イ

イエス様の死から復活／昇天までの間のイエス様の活動について多くの考えを生み出した箇所です。この部分は、キリストが「私たちが神に連れ戻してくださる」（つまり、私たちが神と和解させる）ために、私たちの罪のために死んでくださったキリストの御業の宣言から始まります。

3:18 キリストも、あなたがたを神に近づけようとして、自らは義なるかたであるのに、不義なる人々のために、ひとたび罪のゆえに死なれた。ただし、肉においては殺されたが、霊においては生かされたのである。（第一ペテロ 3：18）

イエス様が、「肉においては殺されたが、霊においては生かされた」という箇所は、この部分の終わりにある非常によく似たコメントと結びついているので、重要です。多くの迫害された信者は「肉においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神に従って生きるようになるためである。」（第一ペテロ 4：6）。これらの2つの類似した聖句は、この難解な箇所の支えと、解釈するための鍵を提供します。イエス様（また、迫害された信者たち）は、罪深い人たちによって肉体においては虐待されましたが、父なる神の御心によって霊の内には神から義とされた（生かされた）という考えに繋がります。第一ペテロの全体的なテーマに沿って、この部分は、苦難の中にあつた人々への更なる励ましとなりました。イエス様が苦しみ方の模範を見せてくださった様に（第一ペテロ 2：21-25）、

神による究極の正義を信頼する方法を教えてくださいました（第一ペテロ 3：18-4：6）。

以下は、ペテロがイエス様の死後、ある時点において、「霊の内」のイエス様の働きを説明する部分です。ここで重要なのは、神の御心に反抗し墮落した天使たちに対する勝利をイエス様が宣言されたという考えです。

3:19 こうして、彼は獄に捕われている霊どものところに下って行き、宣べ伝えることをされた。**3:20** これらの霊というのは、むかしノアの箱舟が造られていた間、神が寛容をもって待っておられたのに従わなかった者どものことである。その箱舟に乗り込み、水を経て救われたのは、わずかに八名だけであった。（第一ペテロ 3：19，20）

イエス様が「獄に捕われている霊どものところに下って行き、宣べ伝えることをされた」タイミングについての記述はありません。第二ペテロ 2章 4-9節は、これらの「獄の霊」を、ノアの時代に人類を迷わせた墮落した天使と特定しています。墮落した天使たちに、イエス様が宣べ伝えられたタイミングは、さほど重要ではありません。イエス様は、これらの獄に捕らわれた天使たちの霊を訪ね、彼らに対する勝利を宣言されました。ここが重要です。これは、次のように述べられている第3章の最後の行で明らかにされています：**3:22** キリストは天に上って神の右に座し、天使たちともろもろの権

威、権力を従えておられるのである（第一ペテロ 3：22）。ノアの時代に反逆し、墮落した天使たちは、イエス様の死から昇天前までのある時点で、勝利されたキリストに完全に服従させられました。（創世記 6 章 1,2 節から、墮落した天使たちがノアの洪水に至るまでの間、神に対する人間の反逆に何らかの不思議な方法で関与していたことがわかります。）

この難解な箇所は、ペテロの全体的な趣旨の理解の手掛かりになります。イエス様は、人間によって、肉体において迫害されましたが、墮落した天使らに対する勝利の宣言によって示されている様に、神によって霊的に義とされました。同様の方法で、人間によって肉体において迫害されている信者は、最終的には、神による霊によって義とされるとペテロは続けます。

注釈：（一部の人が示唆しているように）洪水で死んだ人々の霊にイエス様が福音を宣べ伝え、ノアの説教を拒否した人々に、再度、福音を信じる機会を与えたことを示す様な内容は、ここには記されていません。この見解は、第一ペテロ 4 章 6 節の誤った解釈に基づく無効な推論です。

ペテロは、ノアとその家族が神の言葉を信じたために洪水の水を無事に通り抜けたことと、「バプテスマの水」を通り抜けて救いに至る信者とを比較しています。

3:21 この水はバプテスマを象徴するものであって、今やあなたがたをも救うのである。それは、イエス・キリストの復活によるのであって、からだの汚れを除くことではなく、明らかな良心を神に願い求めることである。**3:22** キリストは天に上って神の右に座し、天使たちともろもろの權威、権力を従えておられるのである。（第一ペテロ 3：21，22）

この箇所は、バプテスマの儀式が人を救うということではありません（そのために、ペテロは単純な水洗いは重要ではないと述べています）。むしろ重要なのは、バプテスマは「イエス・キリストの復活によるのであって、．．．明らかな良心を神に願い求めた」人の心の態度を象徴しているということです。クリスチャンのバプテスマは、悔い改めた罪人の神へ祈り、罪からの清めをキリストに依存すること（つまり、良心）を象徴しています。ノアが神の言葉に信頼して洪水を無事に通り抜けた様に、信者たちは、キリストの救いの御業に関する神のみ言に信頼して、バプテスマの水を通り抜け、清められました。

次にペテロは、苦しみの中にある信者たちに、地上における試練にも関わらず、神に喜こんでいただくために生きるようにと勧告します。何に基づいてでしょうか？キリストが最終的に義とされた様に、信者たちもまた、耐え忍ぶとき、最終的に神の義を受けるでしょう。

4:1 このように、キリストは肉において苦しまれたのであるから、あなたがたも同じ覚悟で心の武装をしなさい。肉において苦しんだ人は、それによって罪からのがれたのである。4:2 それは、肉における残りの生涯を、もはや人間の欲情によらず、神の御旨によって過ごすためである。4:3 過ぎ去った時代には、あなたがたは、異邦人の好みにまかせて、好色、欲情、醉酒、宴楽、暴飲、気ままな偶像礼拝などにふけてきたが、もうそれで十分であろう。4:4 今はあなたがたが、そうした度を過ぎた乱行に加わらないので、彼らは驚きあやしみ、かつ、ののしっている。4:5 彼らは、やがて生ける者と死ねる者とをさばくかたに、申し開きをしなくてはならない。

(第一ペテロ 4 : 1 - 5)

最後の行は重要であり、この部分全体の中核です。父なる神は、すべての生きている者と死者を裁かれる準備ができています。神は正しい判事です。彼が見過ごされる行いは存在せず、最終的に、その正義は正しい人を義とされ、悪者に報いられるでしょう。これにより、解釈者にとって最も難解であった一節を正しく理解することができます。

4:6 死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは、彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神に従って生きるようになるためである。(第一ペテロ 4 : 6)

ペテロは、最初に述べた(第一ペテロ 3:18)、肉体の裁き(すなわち死)と、霊の内に生かされるという考えに戻ります。では、「4:6 死人にさえ福音が宣べ伝えられた。」とはどういう意味なのでしょうか。答えは文脈から明らかです。当時、イエス様に信仰を置くということは、迫害者によって死刑にされる時代でした。それにもかかわらず、彼らは「人として肉体において裁かれ」ましたが、神によって「霊の内に生きる」ようにされました。イエスに起こった通りのことが信者たちにも起こりました—人によって拒絶されましたが、神によって義を受けられました。(次のページは、聖句の視覚的な図/概要を示しています。これは、関連する考えや着想を理解するのに役立つことを目的としています。)

考えの繋がり：第一ペテロ 3:18-4:6

3:18 キリストも、あなたがたを神に近づけようとして、自らは義なるかたであるのに、不義なる人々のために、ひとたび罪のゆえに死なれた。ただし、肉においては殺されたが、霊においては生かされたのである。（第一ペテロ 3：18）

イエス様は、肉体において裁かれました（人の手による死に苦しみました）。しかし、霊の内に生かされました（その御父によって擁護されました）。

第一ペテロ 3 章 19-22 節は、本旨ではありません。肉体的な死に苦しまれたイエス様は、霊の内に生かされました。この霊的な形で、イエス様は下って行かれ、ノアの世代に神のみ声に反抗するように促した、墮落した霊に対して勝利の宣言をされました。（これらの墮天使に対する神の裁きについての平行した議論については、ペテロの手紙二 2 章 4-9 節を参照してください。）

第 4 章 1-6 節は、やがて生ける者と死ねる者を裁かれる神は、この世でクリスチャンを迫害し殺す人々に対する最終的な勝利の宣言と、神の御心に従って、御心を行いたいと願うがゆえに苦しみを受ける人々に対する義の宣言をされるという考えを取り上げます。

4:5 彼らは、やがて生ける者と死ねる者とをさばくかたに、申し開きをしなくてはならない。（第一ペテロ 4：5，）

4:6 死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは、彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神に従って生きるようになるためである。（第一ペテロ 4：6）

クリスチャンは、福音を聞き、生きている間に信じました。その後、彼らは肉体において裁かれました（彼らは迫害者の手によって死にました）。しかし、霊の内に生きています（天国の彼らの父によって擁護されました）。

ペテロが取り組んでいた苦難の中のクリスチャンの中心的な考えは、苦しみは無駄ではないということです。公正な最終判事である神は、すべての得点を解決されます。神の御心とお目的に従って、この人生で苦しむ信者を義としてくださいます。神はまた、その愛する子たちの苦しみをもたらした人々を裁かれます。このように、この人生で迫害（死さえも）に苦しんでいる人々は、自身を持つことができます。父なる神が苦難の後に息子イエスを義とされた様に、この人生で忠実に喪失に苦しむすべての神の子どもたちを義としてくださいます。この中心的な考え方は、第 4 章の終わりにあります。

4:19 だから、神の御旨に従って苦しみを受ける人々は、善をおこない、そして、真実であられる創造者に、自分のたましいをゆだねるがよい。（第一ペテロ 4：19）

この難解な箇所のできたので、実用化して適用しましょう。誤って判断されたり、迫害されたり、攻撃されたりした経験がありますか？ その状況において明確な良心をもって神に仕えましたか？ 誰も完璧に生きているわけではありませんが、あなたは明確な良心を持って行動し、神を敬うことを求めてきたと神の御前に立つことができますか？ もしそうなら、神とあなたの事例を休ませることができますか、そして神の究極の正義に希望がありますか？ 直ちに、苦情を表明したり、行動を説明したりする機会を持ちたいという願望に抵抗できますか？ その代わりに、あなたの希望を神の最終的な判断にお委ねすることができますか？ これこそ、ペテロが迫害された信者たちに求めたことです：直ちに正義を求めようとするのではなく（これはローマの世界で迫害された彼らにとって絶対不可能でした。）、神の永遠の正義に希望と信頼を置くべきです。

敬虔な生活を生きる勧告：4：7-11

敬虔な生活を生きる勧告は、手紙全体に散らばっています。

4:7 万物の終りが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい。**4:8** 何よりもまず、互の愛を熱く保ちなさい。愛は多くの罪をおおうものである。**4:9** 不平を言わずに、互にもてなし合いなさい。**4:10** あなたがたは、それぞれ賜物をいただいているのだから、神のさまざまな恵みの良き管理人として、それをお互のために役立てるべきであ

る。**4:11** 語る者は、神の御言を語る者にふさわしく語り、奉仕する者は、神から賜わる力による者にふさわしく奉仕すべきである。それは、すべてのことにおいてイエス・キリストによって、神があがめられるためである。栄光と力が世々限りなく、彼にあるように、アアメン。（第一ペテロ4：7-11）

祈り、互いに愛し合い、もてなしなさい。これらは、クリスチャンが、神のご栄光のために霊的賜物を用いて費やすべき事柄です。「万物の終りが近づいている。」とは、イエス様の再臨は、彼らが生きている内に来ると、初期のクリスチャンたちが期待をしていたことを示しています。イエス様は弟子たちに、主人がいつ戻ってこられても良いように生きることを教えられたので、その様な差し迫った期待を持って生きることは誤りではありませんでした。あらゆる世代のクリスチャンは、イエス様が戻って来るかもしれないという熱心な期待を持って生きるべきです。もっと広い意味で言うと、「万物の終わりは常に近い」ということです。寿命を全うして、イエス様のところへ行くか、生きているうちにイエス様が再臨されて、私たちが家に連れて帰ってくださるかに関わらず、私たちは、間もなくイエス様に会うからです。いずれにせよ、常に私たちの主、救い主に間もなく会うことを期待して生きるべきです。

間もなく、イエス様に会うという考えは、あなたが今日をどのように生きるかに影響しますか？ 言い換えれば、もし医者、あなたの余命は、残り6ヶ月だと告げたとしたら、あなたの人生、行動、価値観をどの様に変えるでしょうか？ 何を優先しますか？ 何をやめますか？ いつ主に会うか、私たちに知らされていませんが、いつでも、直ぐに、イエス様の御前に立つことができるように生きるべきです！

キリストの苦しみを分かち合う：4：12-19

この部分は、神のご栄光のために、御心を行いたいと願うがゆえに苦しみを受けることにおけるペテロの強調の頂点に達します。信者は、信仰を試す／洗練する「激しい試練」に驚いてはなりません（第一ペテロ1：4-6と同様の考え）。むしろ、喜ぶべきです（参照：ヤコブ1：2,3）。

4:12 愛する者たちよ。あなたがたを試みるために降りかかって来る火のような試練を、何か思いがけないことが起きたかのように驚きあやしむことなく、**4:13** むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど、喜ぶがよい。それは、キリストの栄光が現れる際に、よろこびにあふれるためである。**4:14** キリストの名のためにそしられるなら、あなたがたはさいわいである。その時には、栄光の霊、神の霊が、あなたがたに宿るからである。**4:15** あなたがたのうち、だれも、人殺し、盗人、悪を行う者、あるいは、他人に干渉する者と

して苦しみに会うことのないようにしなさい。**4:16** しかし、クリスチャンとして苦しみを受けるのであれば、恥じることはない。かえって、この名によって神をあがめなさい。**4:17** さばきが神の家から始められる時がきた。それが、わたしたちからまず始められるとしたら、神の福音に従わない人々の行く末は、どんなであろうか。**4:18** また義人でさえ、かろうじて救われるのだとすれば、不信なる者や罪人は、どうなるであろうか。**4:19** だから、神の御旨に従って苦しみを受ける人々は、善をおこない、そして、真実であられる創造者に、自分のたましいをゆだねるがよい。（第一ペテロ4：12-19）

神秘的な方法で、神の霊が、キリストのために苦しむ信者たちに宿ってくださいます（第一ペテロ4:14）。これは、迫害に直面したとき、信者が何を言おうかと、事前に心配するべきではないというイエス様の教えと一致しています。宿られる霊によって言うべきことは、その時に授けられる（マタイ10：19,20）。繰り返し、神の最終的な裁きが強調されており（18節）、神の福音に従った人々と信者たちに苦難をもたらした人々との間で、神は正しく裁かれます。迫害に合っていた信者たちに、ペテロは絶えず、彼らの希望を神の究極の正義に置くようにと呼びかけています。

長老と若い指導者への勧告：5：1-6

5:1 そこで、あなたがたのうちの長老たちに勧める。わたしも、長老のひとりで、キリストの苦難についての証人であり、また、やがて現れようとする栄光にあずかる者である。5:2 あなたがたにゆだねられている神の羊の群れを牧しなさい。しいられてするのではなく、神に従って自ら進んでなし、恥ずべき利得のためではなく、本心から、それをしなさい。5:3 また、ゆだねられた者たちの上に権力をふるうことをしないで、むしろ、群れの模範となるべきである。5:4 そうすれば、大牧者が現れる時には、しばむことのない栄光の冠を受けるであろう。5:5 同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。また、みな互に謙遜を身につけなさい。神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵みを賜うからである。
(第一ペテロ 5：1－5)

長老たちは、牧者の頭であるイエス様の僕として働きま
す。長老たちが群れをいかに牧するべきかを説明する一連の
並列された声明があります。

自発的に—強制ではない。

熱心に—利己的な利益のためではない。

模範的—群れを支配しない。

そして、この様に神の群れを牧した人々には、特別な報酬、つまり栄光の冠が待っています。再度、ペテロが神の最

終的な裁きと神の究極の報酬に重点を置いていることに注目してください。長老や教会の指導者でさえ、神による究極の報酬と承認に、しっかりと固定された希望を持って奉仕する必要があります。

あなたは、周囲の人々の拍手のために生きておられるでしょうか、それとも、神の最終的な承認のために生きておられるでしょうか？ これは非常に重要な質問であり、私たちがどの様に、また、何のために生きているのかについての最も深い動機を物語っています。この深い質問について、じっくりと熟考してください。誰の承認を求めているでしょうか？ あなたの人生は、あなたが求める承認によって決定づけられます！ あなたは「ただ、お一人の聴衆のために生きている」と言えますか？

苦しみの中、持続させてくださる神に信頼する：5：6-11

この手紙を締めくくる前に、ペテロはもう一度、苦しみの中心的なテーマに戻りますが、ここでは、迫害された信者による不信者のための証に焦点は当てられていません。むしろ、神への信者の希望と悪魔のたくらみへの警戒に焦点が当てられています。

5:6 だから、あなたがたは、神の力強い御手の下に、自らを低くしなさい。時が来れば神はあなたがたを高くして下さるであろう。5:7 神はあなたがたをかえりみえて下さるのである

から、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。5:8 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししののように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。5:9 この悪魔にむかい、信仰にかたく立って、抵抗しなさい。あなたがたのよく知っているとおり、全世界にいるあなたがたの兄弟たちも、同じような苦しみの数々に会っているのである。5:10 あなたがたをキリストにある永遠の栄光に招き入れて下さったあふるる恵みの神は、しばらくの苦しみした後、あなたがたをいやし、強め、力づけ、不動のものとして下さるであろう。5:11 どうか、力が世々限りなく、神にあるように、アアメン。(第一ペテ5：6-11)

この箇所は、苦しんでいる信者たちをいくつかの方法で励まします。主要な考えは、悪が支配している様に感じられる様なときでも、神が支配しておられるということです。

- 神の時に、あなたを試練から引き上げてくださることがお出来になることを覚えて、試練の中にあっても、神と共に謙虚に歩み続けてください。父なる神がイエス様を死からよみがえらせ、天の神の右座に上げられた様に、父なる神は迫害されたご自身の子どもたちを適切な時に、彼らを天の神のご栄光のご臨在の内へと引き上げてくださいます。

- 神は、あなたを愛しておられます。あなたが苦しんでいるときでさえ、あなたの全ての不安をお委ねしましょう。私たち

の主、善い羊飼いであるお方は、地上の苦しみを経験されました。苦しみを知っておられるお方です。あなたが、神の御心を行いたいと願うがゆえに苦しみを受けるときでさえ、恐れを彼に委ねましょう。

- 気を付けましょう！サタンは、あなたの試練が最も輝かしい証となることを阻止し、あなたを敗北へと陥れることだけを望んでいます。

- 苦しみの中で、あなたは独りではないことを知ってください。

- この人生の(一時的な)苦しみが完了するとき、神はあなたを永遠の栄光の家に連れて帰られます。

最終挨拶：5：12-14

5:12 わたしは、忠実な兄弟として信頼しているシルワノの手によって、この短い手紙をあなたがたにおくり、勧めをし、また、これが神のまことの恵みであることをあかしした。この恵みのうちに、かたく立っていなさい。5:13 あなたがたと共に選ばれてバビロンにある教会、ならびに、わたしの子マルコから、あなたがたによろしく。5:14 愛の接吻をもって互にあいさつをかわしなさい。キリストにあるあなたがた一同に、平安があるように。(第一ペテロ5：12-14)

ペテロがこの手紙を書き記したとき、シルバヌス（シラス）は、ペテロの秘書でした。興味深いことに、シルバヌスとはローマの神々の一人（田舎の神）の名前でした。ローマの神に因んで名付けられた名前でしたが、彼の信仰は唯一の真の神である、イエス・キリストにあると、仲間のローマ人に説明する機会がどれほどあったことでしょうか。参照：「**バビロンにある教会**」は、ペテロが頻繁に奉仕したローマの街中に点在する教会への言及である可能性があります。ペテロの「息子」、マルコの言及は、とても貴重です。このマルコは、パウロとバルナバとの最初の宣教師旅行で苦労したジョン・マルコのことです。彼は後にペテロの助手兼秘書となり、ローマにおけるペテロの説教を記録しました。それらの記録を最終的に「マルコによる福音書」としてまとめました。

ディスカッションの質問

1. 第一ペテロの教えは、あなたの苦しみに対する理解と反応をどの様に形成しますか？
2. 私たちにとって、希望を神の永遠の正義に置くことが頻繁に難しいのはなぜですか。なぜ私たちは、人間の意見の法廷での立証を切望し、苦情を表明したり、行動を説明したりする機会を望むのでしょうか。
3. イエス様が苦しみ方の模範を見せてくださったただけでなく、究極の正義のために神に信頼する方法をモデル化してくださったと知り、どのように激励されましたか。
4. 第一ペテロで取り上げた、すべての考えの中で、あなたにとって最も際立っていることは何ですか？この学びからどんな教訓を得られましたか？
5. 妻／夫：第3章 1-6,7 節から、どのようなチャレンジを心に留めましたか。「妻」に関するシャーリーのビデオに付随する、妻に関する追加の注釈を参考にしてください。